

Q ラフからのアプローチに重要な2つの考え方

こんにちは、米田プロ。質問なんですが、30ヤード以内のアプローチがどうしても上手くいきません。特に、ラフからのショットが上手くいきません。ボールが浮いてる場合と沈んでる場合のヘッドの入れ方に悩んでいます。チョロしたりトップしたりダフったりという具合です。バックスウィングもグリップが腰のあたりで打っているのですが、アドバイスをお願いします。

A

ラフからのショットは、アプローチの中でも難易度が高いショットだと言えます。基本的には、ピッチ&ランの基本を守りますが、ライによって気を付けるべき点が変わってきます。

■ ボールが沈んでいる場合

テークバックでも芝の抵抗を受けるため、軌道はV字になるように早めにコックを作り、クラブヘッドをボールに向かって上から入れるように振り下ろします。少しバンカーショットに近いスウィングだと言えるでしょう。

■ ボールが浮いている場合

ボールが沈んでいる場合とは反対に、軌道はなだらかなU字になるようにし、ボールの手前の芝を横から一緒に打つような感じで、滑らすように打ちます。この時、フェースが上から入ってしまうと、ダルマ落としのような状態になります。

いずれにしても、ラフからのショットはピンまで寄せるというよりも、まずはグリーンにのればOKという程度に考えましょう。また、大切なのはインパクトでグリップが緩まないようにすることなので、ボールが置かれている状況に似たライで素振りを数回するとよいでしょう。さらに、テークバックとフォロースルーを同じ速さに揃えると安定するはずですので、試してみてください。